

みんなでつなぐ

平成13年12月10日発行 通巻第109号（毎月1回10日発行）

ダム水源地ネット

2001.12月号

12

散歩道

泉の想い出

こちらダム水源地

木戸ダム「木戸川あおぞら教室」開催 ほか

地域活性化レポート

水と緑の文化の里・生き生き下田村

情報ホットライン

希少猛禽類の保全策

手取川ダム

てどりがわ
大自然と温泉、
そして伝統文化が息づく村



今月の水源地

手取川ダム
大自然と温泉、そして伝統文化が息づく村—— 2

今月の行事 —— 4

散歩道(パセオ)

泉の思い出 —— 5
七戸 長生

ワンポイント・ゼミナー

**オランダハーリングフリート堰に関する
現地調査報告** —— 6

こちらダム水源地

木戸ダム「木戸川あおぞら教室」開催 —— 8
幾春別の自然を市民の手で! —— 9

特別企画
徳山ダム お魚引っ越し大作戦 —— 10

地域活性化レポート

水と緑の文化の里・生き生き下田村 —— 12

情報ホットライン

希少猛禽類の保全策 —— 14

トピックス —— 16

(今月の表紙)

手取川ダム 雪化粧のダム湖畔

編集事務局：財団法人 ダム水源地環境整備センター ダム広報センター
所在地：〒102-0083 東京都千代田区麹町2-14-2
TEL 03-3263-9051 FAX 03-3263-9085
http://www.wec.or.jp/
E-mail:koho@wec.or.jp

霊峰白山に源を発し、日本海に注ぐ手取川に建設された手取川ダムは、洪水調節、水道・工業用水の供給、発電を目的とする多目的ダムです。

豊かな自然環境と由緒ある伝統に恵まれる尾口村、白峰村両村に位置するこのダムは、地域活性化の拠点の一つにもなっています。

春の新緑、夏の清流、紅葉が華やかく秋、そして銀世界の冬と手取湖の四季は、感動的な風情を見せてくれます。

文弥でくのふるさと「尾口村

尾口村は、石川県の東南部で霊峰白山の麓に位置する、林野約98%、面積約137km²、人口は約800人で四季を通じて豊かな自然を織りなす村です。

当村は、白山一里野温泉スキー場、白山瀬女高原スキー場を開設し、観光産業として心と体を育む村づくりを推進しています。

「文弥人形浄瑠璃・でくの舞」(国指定重要無形民俗文化財)が毎年厳冬の2月第2・3土日の4日間を通し、東二口の民俗資料館で上演。でく(人形)と舞う人が一体になって演ずる姿は、力感あふれるものがあります。

自然・歴史・文化が根づく白峰村

白峰村には、国の重要文化財、重要有形民俗文化財、選択文化財、天然記念物、伝統工芸品、白山国立公園、恐竜化石と貴重な自然、歴史、文化が数多く残されています。

現在、白山恐竜パーク白峰、県立白山ろく民俗資料館、白山本堂、白山工房、砂防科学館、国立公園センター等の施設整備、誘致を行い年間30万人の観光客が本村を訪れています。この他にも開設30周年を迎える白峰温泉スキー場、無色無臭で肌がすべすべになると評判の白峰温泉、白山まつり、雪だるままつり等、四季を通してのイベントを開催しています。

おみやげ

尾口村・桧餅、堅豆腐、牛首細
白峰村・尾口のでくまわし、尾添獅子舞、炭焼きくどき

イベント

白峰村・白山まつり、雪だるままつり
JR金沢駅から北陸鉄道バス白峰行きで東二口下車。
白峰村・北陸自動車道福井北ICから車で約1時間

石川県尾口村

農林土木課 山口 一男

石川県白峰村

産業振興課 大宮 英幸

(☎ 〇七六一九 八二〇一一)

12月

《東北》

14日(金) / 森吉山ダム開放セミナー (場所: 秋田県森吉町)
主催 / 森吉山ダム建設期成同盟会・森吉山ダム工事事務所
【☎0186 - 72 - 3105】内容 / 全体討論会、感想文、10月から行われている当開放セミナーの閉校式。

《関東》

上旬~1月下旬 / 第15回「宮ヶ瀬湖」水と緑のふるさと発見写真コンテスト入賞作品展 (場所: 神奈川県清川村やまなみセンター・愛川町エネルギー館) 主催 / 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団 内容 / 写真コンテスト全入賞作品の展示会
【宮ヶ瀬ダム周辺振興財団☎046 - 288 - 3600】

16日(日) / 第18回 北川辺町駅伝大会 (場所: 埼玉県渡良瀬遊水地周辺) 主催 / 体育協会 内容 / 北川辺町民および近隣市町村小中学生を対象とした駅伝大会。
【北川辺町教育委員会☎0280 - 62 - 1710】

26日(水) / 中之条町ふるさと祭り花火大会 (場所: 群馬県中之条町)
主催 / 同実行委員会【中之条町商工会青年部☎0279 - 75 - 2200】内容 / 駅南地域での四万川河川敷で花火大会の実施。甘酒の無料配布、等。中之条町には四万川ダムがある。

《北陸》

22日(土)~3月末日 / 白山一里野温泉スキー場30周年記念BIGイベント (場所: 石川県尾口村白山一里野温泉スキー場)
主催 / ツウワン白峰【☎07619 - 8 - 2121白山白峰温泉スキー場☎07619 - 8 - 2336】内容 / ジャイアントスラローム競技や雪だるまコンテストが行われ、大鍋サービスとして堅豆腐とナメコのみそ汁が振る舞われる。30周年として大会、イベント等が催される。尾口村には手取川ダムがある。

《中国》

31日(月)・1日(火) / ダム湖噴水ライトアップダム堤体ライトアップ (場所: 島根県大田市) 主催 / 島根県大田土木建築事務所
【☎維持管理課三瓶ダム管理係☎0854 - 84 - 9753】
内容 / 31日~元日の朝までダム湖の噴水ライトアップ及び堤体ライトアップを行う。

23日(日) / 大原湖キャンプ場もちつき大会 (場所: 山口県徳地町佐波川ダム湖周辺) 主催 / 徳地町経済課 内容 / もちつき大会、クリスマスツリー飾り付け(5日~下旬まで)。
【大原湖キャンプ場☎0835 - 58 - 0200】

《四国》

11月20日(火)~1月15日(日) / 朝霧湖・野村ダム湖畔のイルミネーション (場所: 愛媛県野村町) 主催 / 野村ダム管理所【電機通信係☎0894 - 72 - 1211】内容 / 野村ダム周辺で約2500個の電球を使いイルミネーションを実施。

1日(土)~1月10日(木) / 池田冬のオブジェ2001夢来人イルミネーションでかざる冬の祭典 (場所: 徳島県池田町)
主催 / 池田町産業観光課【☎0883 - 72 - 7619】
内容 / 池田町をイルミネーションで飾る。池田ダムのライトアップを17時~22時まで行う。

23日(日) / 樹氷林ツアー (場所: 徳島県上勝町) 主催 / 月が谷温泉【☎08854 - 6 - 0203】水源地である高丸山の樹氷林(ブナ原生林)を見学。上勝町には正木ダムがある。

《九州》

31日(月)~1月3日(木) / 厳木ダムライトアップ (場所: 佐賀県厳木町) 主催 / 厳木ダム管理所【☎管理係☎0955 - 63 - 2500】ダムのライトアップを行う。

1月

《東北》

6日(日)・7日(月) / 大18回湯田町温泉プール協議会 (場所: 岩手県湯田町湯本地区) 主催 / 同実行委員会・湯田町【産業観光課☎0179 - 82 - 2111】・岩手日報社 内容 / 小・中学生、一般の方々を対象にした新年最初の水泳大会。申込み終了。湯田町には湯田ダムがある。

19日(土) / 白木野人形送り (場所: 岩手県湯田町白木野地区公民館) 主催 / 白木野地区 内容 / ワラ人形に疫病神を背負わせ部落外に送り出す。一年間の無病息災を祈る。(町無形民俗文化財)【湯田町役場産業観光課☎0197 - 82 - 2111】

《関東》

5日(土) / 地域自然観察会 (場所: 荒川調節池彩湖・道満グリーンパーク) 主催 / 彩湖自然学習センター・戸田市公園緑地公社共催 内容 / 彩湖と彩湖畔の道満グリーンパークで、自然観察会を実施し、七草粥をいただく。【彩湖自然学習センター☎048 - 422 - 9991】

14日(月) / 森と川と水源地のものがたり~MUSICALリバーヘッド (場所: 東京都豊島区芸術劇場中ホール) 主催 / 利根川水系水資源開発促進協議会 内容 / 水源地ミュージカルの公演。(劇団ふるさとキャラバン)【東京都都市計画局総合計画部都市整備室 水資源・建設副産物担当課長 霜田☎03 - 5388 - 3230】申込み終了。

14日(月)・3月17日(日) / 自然教室バードウォッチング入門 (場所: 神奈川県宮ヶ瀬ダム湖および周辺)
主催 / 宮ヶ瀬ビジターセンター【☎046 - 288 - 1373】
内容 / 初心者向けバードウォッチング講座。
(2回連続。12月27日申込み必着)

《北陸》

23日(水)~25日(金) / つる細工講習会 (場所: 山形県小国町梅花皮荘) 主催 / つる工芸協会・観光協会【小国町商工観光課☎0238 - 62 - 2111】内容 / 小国の伝統工芸であるつる細工の講習会、2泊3日で行う。小国町では横川ダムを建設中。

14日(月) / 利賀初午 (場所: 富山県利賀村) 主催 / 初午保存会 内容 / 約200年前より伝わる全国でも珍しい子どもの祭り。かつて盛んであった養蚕の繁栄と家内安全を祈願するもので、積雪のなか子どもたちが各戸を訪問して初午を踊る。(国指定無形民俗文化財)【利賀村役場産業振興課☎0763 - 68 - 2111】利賀村には利賀川ダムがある。

《近畿》

10日(木)~3月8日(金) / 雪見船 (場所: 滋賀県大津港~長浜港) 主催 / 琵琶湖汽船【☎077 - 524 - 5000】内容 / 琵琶湖の冬の風物詩。船内から冬景色が満喫できる。(完全予約制)

《中国》

6日(木) / 大和町消防団出初式 (場所: 広島県大和町和木) 主催 / 大和町 内容 / 消防団出初式【大和町役場総務課☎082473 - 3 - 0222】大和町周辺には棕梨ダムがある。

《九州》

4日(金) / 新春歩く会 (場所: 佐賀県有田町) 主催 / 有田町教育委員会 内容 / 有田ダム周辺を歩く。
【有田町役場生涯学習課☎0955 - 43 - 2101】

泉の想い出

七戸 長生

市立名寄短期大学 学長



晩秋の一日、全く久しぶりに美瑛の丘を訪ねた。春から秋にかけての農作期間には、うねるよつに連なる丘を、作物ごとのさまざまな彩りで、パッチワークのように美しく飾って日本離れのした風景を見せてくれる。が、この日は、白く雪をのせた大雪連峰から十勝連峰に連なる「北海道の屋根」が、雄大な丘の風景を一段と引き立てていた。

実は私は戦時中の学徒動員で、農作期間の約6ヶ月を、この丘の麓の農家に住み込みで援農をした経験がある。当時は、食い気一本槍の中学生であったせいもあるが、誰も、この美しい丘の風景を口にするものは居なかった。もっとも、農家の住居は多分飲み水の関係からだと思っが、はるか下の沢ぞいに点在していて、そこから見上げる丘は、百メートルも二百メートルもの標高差で迫って来るゲレンデのような存在であった。そこを私たちはかます吠につめた肥料や種子を背負って、やっとの思いで丘の上にとりつくという重労働の毎日であった。

夏の夕立の後などは、畦の間の表土が激しく流されて、深く掘り崩されるのを見ることもしばしばであった。この、ガリー発生を防ぐ永年性の作物としてラベンダーが植えられるようになった。これが、丘の風景ブームに火を付ける発端になったらしいが、当時はいささか怨めしい急斜面の畑という記憶しかない。とても、丘

の上に立つて、このように壮大で美しい風景を堪能するなどという、生活のゆとりはどこにもなかったのである。



しかし、一日の仕事が終わって夕闇が迫る時刻に、沢のそこかしこでコンコンと湧き出ている泉で、疲れた手足を洗ってひと息つく、あのひとときがとても美しく、懐かしく想い出される。その泉はいまは忘れられた存在らしい。

オランダ ハーリングダフリート堰に関する現地調査報告

国土交通省河川局 治水課
企画専門官 田村 秀夫

1 はじめに

2000年にオランダ政府がハーリングダフリート堰の一部開放を決定しましたが、その経緯背景等の調査のため、筆者らは9月中旬から下旬にかけて、オランダ政府の関係政府機関や利水関係機関等を訪問しました。

以下にその概要を紹介します。

2 ハーリングダフリート堰の概要

(1) 目的

1953年にオランダ西部を襲った高潮により、当地域では16万ヘクタールの地域が浸水し、死者1835名に及ぶ被害が発生しました。この大災害を契機にオランダ政府は高潮防御を目的とした「デルタプロジェクト」を策定しました。ハーリングダフリート堰はデルタプロジェクトの一環として、ライン川の派川の一つであるハーリングダフリート川の河口に1970年に設置されたものです。(図1、写真1)

ハーリングダフリート堰の第一の目的は、計画策定の経緯から明らかなように、高潮災害を防止することにあります。

この目的に付随して河口部の淡水化が物理的に可能であったことから、将来の地域の発展にも資するよう平常時も水門を閉鎖し淡水を確保することとしたものです。

(2) 堰の運用によって得られた効果、課題

堰の運用に伴い、高潮災害の防止や飲料水・農業用水の確保、舟運の航行性の向上、水面を利用したレクリエーション機会の増大等の効果が得られました。しかし一方では、上流部からの汚濁物質・土砂の堆積の進行(今後5～10年後には洪水流下支障との予測がなされています)、回遊性魚類の遡上への影響など堰上流域の生態系の変化、水位が安定化したことによる河岸の浸食の進行等の課題が生じました。

3 堰の一部開放までの流れ

右記のような課題や自然環境に対する関心の高まり等が契機となり、オランダ政府は、1994年にハーリングダフリート堰の運用について環境影響評価に着手し、1999年にはその結果を公表、2000年には、堰を2005年から段階的に開放することを決定しました。

堰の開放について検討を進めるにあたっては次の4案が検討されています。

現状維持案

潮汐制限案

(1/5の水門を40%の時間開放)

潮汐調節案

(1/3の水門を95%の時間開放)

高潮対策(水門は高潮時以外は開放)

これら複数の案に対して、自然環境の復元度合い、開放に伴う河道浚渫費用の低減、取水口の移設等開放に伴い必要となる対策の内容、費用等を総合的に考慮し、の潮汐調節案が採用されています。

なお、2005年から実施されるのはこの潮汐調節案そのものではなく、まずは10%の水門を95%の時間開放してモタリングを行い、その結果を踏まえて潮汐調節案に移行する予定です。

4 堰の開放が決定された背景

今回の調査を通じ、堰の開放決定にあたり、環境問題の他、次のような背景があったと考えられます。



写真 1

農業政策の変化

人件費の安い国からの農作物の輸入を増大することに伴い、堰周辺地域の農業の経済的価値が相対的に低下した。

気象変動への対応

将来の気候変動に伴う降雨量の増大に対し、内水排除について機械のみでなく、堤内地に水を貯留する方式を積極的に採用し、また河川の洪水流量の増大に対し氾濫域を確保する方針を政府として打ち出したこと。(なお、この背景もあって、河川沿川等を湿地として回復しよつとするデルタネイチャープロジェクトが計

地図番号	建造物
①	ホランス・アイセル防波堤
②	ブリーエルス・マースのダム
③	ハーリングフリート、排水門付きダム
④	ブラウワースハーファン水路の排水門付きダム
⑤	東スヘルデ河の防波堤
⑥	フェールス・ガット・ダム
⑦	ザントクレーク・ダム、船舶用開門付き
⑧	フレーベリンゲン・ダム、船舶用開門、排水門付き
⑨	フォルケラク・ダム、開門付き
⑩	フィリップス・ダム、開門付き
⑪	オーステル・ダム、水門付き
⑫	ハーリングフリート橋
⑬	ゼーラント橋
⑭	スヘルデ・ライン運河

図 1
デルタ計画主要事業位置図



堤防(ダム)	運河	塩水(干満有)
防波堤	幹線道路	塩水(干満無)
防波壁	計画中の幹線道路	淡水
排水門	橋	砂丘
航行用水門	地下鉄	1953年の洪水にあった地区

(オランダ地理便覧より作成)

画されています)
堆積が進行することによる洪水流下への支障等

いずれにしても、堰設置の第一の目的は高潮災害の防止にあり、その他の目的はそれに付随するものであって、重要度が大きく異なるということ、今回、一部開放の決定にいたる過程において、高潮防除の目的そのものが見直しになるといことはそもそもなかったということに留意する必要があります。

5 終わりに

今回の調査に当たっては、現地の日本大使館をはじめ、多くの方々にお世話になりました。あらためてお礼を申し上げる次第です。



木戸ダム
福島県

木戸ダム「木戸川あおぞら教室」開催

木戸川は、福島県浜通り方部の中に位置し、その源を福島県双葉郡川内村の松山、大滝根山等の阿武隈山地に発して山間部を東流し、大小の支川を合流した後に、太平洋に注ぐ流域面積約261km²の二級河川です。木戸ダムは、木戸川水系木戸川に、洪水調節、河川環境の保全、そして水道用水と工業用水の供給を目的とした多目的ダムで、平成20年3月の完成を目指しています。

今年、10月22日に、福島県木戸ダム建設事務所主催で、下流域にある櫛葉町立櫛葉南小学校5年生42名が、また、24日には、上流域の川内村立川内第二小学校5年生14名が参加して、「ふれあいin木戸川」の催しのひとつとして、木戸川の上下流での水質の違いや、河川の役割や大切さを身近なものとして考えてもらうことを目的とし、「木戸川あおぞら教室」を実施しました。

ダム建設現場見学



ただいま測定中



水質実験状況

併せて、ダムの役割や重要性を知ってもらうために、現在行われているダム建設現場の見学も行いました。生徒たちは、広大な現場を目のあたりにし、案内者に思い思いの質問をし、関心の高さが伺われました。

水質実験では、簡易的なパクテスタにより、木戸川のCODと亜硝酸測定を行いました。木戸川は、県内屈指の綺麗な水質を有しており、生徒たちは、実験を通して、実際に川の清潔さを理解できたようです。

また、川の生活排水などの影響を確認するために、2リットルの河水にジューズを一滴(1cc)加えて2000倍に希釈した水質検査も行いました。

これからも、ダム完成まで「ふれあいin木戸川」として、「記念植樹」「巣箱設置」「バードウォッチング」などを開催し、来訪者に対しダムの役割、重要性をPRしていくとともに、河川愛護の意識の向上に努めていきたいと考えております。

木戸ダム建設事務所
村上 弘



からさわ
桂沢ダム
北海道

幾春別の自然を市民の手で！ 「三笠の湖・川・緑を愛する会」より発信

三笠市は、北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、総面積の86%を山林が占め、市内に道立自然公園「桂沢ダム湖」や幾春別川などを有する水と緑豊かなまちです。

当市に位置する桂沢ダムは、北海道初の多目的ダムとして洪水調節・水道用水と農業用水の確保・水力発電を目的に昭和32年、幾春別川上流に完成しました。



クリーン作戦・収集したゴミ



川辺のゴミ拾い

平成8年、水環境の保全と提言、親水を目的に、市民の自主的組織「三笠の湖・川・緑を愛する会」を設立しました。以後

「幾春別川クリーン作戦」と「植栽事業」「源流探検」「ラフティングとリバーレスキュー体験」「リバーウォッチングと川を語る会」「ヤマベやニジマス放流による「親子釣り教室」などを主催しています。

そのなかで、今年10月9日に多数の市民の参加をいただき、「幾春別川クリーン作戦」を行いました。これは、水がもたらす恵みを再認識し市民の「川をきれいにする」という意識を育てることを目的に、北海道開発局が進めている石狩川クリーンアップと連動して行っています。内容は、各流域町内会や一般市民・各団体の方々による農業用取水の止まる湧水期に川の中とその周辺のゴミ拾いです。今年約170人の参加があり、回収されたゴミの量は1トン近くにもなりました。



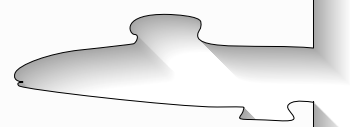
小・中学生の植樹風景



幼稚園児と完成したカミネツコン

次に「緑の回廊づくり植栽事業」は、石狩川振興財団が主催する「石狩川流域1人一本300万本植樹運動」の一環として河畔林の造成を目的にしています。毎年教育の一環として植樹地区の幼・小・中学生も参加し、一般市民等を含め約85名が参加しました。植樹種はトドマツ・カツラ・キタコブシ・ヤチダモほか5種160本と、カミネツコン（再生紙を用いた苗木用のポット）による植樹21本です。これらの事業は、その意義も含めて徐々に市民に浸透し始めてきており、今後も継続し定着するよう取り組んでいきたいと考えています。

「三笠の湖・川・緑を愛する会」会長
高篠 和憲



特別企画

徳山ダム お魚引っ越し大作戦

水資源開発公団中部支社

中尾 武史

徳山ダムは揖斐川の最上流、岐阜県揖斐郡藤橋村に水資源開発公団が平成19年度完成を目指して建設している中央遮水壁型ロックフィルダムです。規模は堤高161m、堤頂長415m、総貯水量は6.6億m³になります。

この徳山ダムの建設現場で、平成13年8月8日に名古屋女子大学の学生、徳山ダム関連工事関係者や徳山ダム建設所職員等、約80名が参加して魚の移動放流（お魚引っ越し大作戦）が行われましたので報告します。



お魚引っ越し大作戦

徳山ダム建設所では職員及び関連工事施工業者の環境保全意識の高揚と知識充実のため、平成8年から環境学習会を実施しています。

今回の「お魚引っ越し大作戦」は、その環境学習会の一環として指導を名古屋女子大学の駒田格知教授（のりちよ）にお願いしました。この移動放流は、徳山ダム完成を見据えた揖斐川上流域の底生魚（川底に棲む魚）の保全対策の一環として、駒田先生からご提案

頂いたものです。

当日は好天に恵まれ徳山ダム建設現場に、参加者が勢ぞろいしました。駒田先生から「ダム湖の底になると、アジメドジョウ、アカザ、カジカ等、流水を好む底生魚は生きられなくなります。彼らは習性として、もともと生息している付近を自ら離れることはありません。彼らのうち捕獲できたものを、貯水池完成後も川に流れが残る場所に移し、そこでも増殖してもらいましょう。なお、もれなく引っ越し必要はありません。残った魚がダムができるまで、ここで繁殖し続けるのも大事なことです」という主旨の説明がありました。その後、数班に分かれて採捕活動（午前午後各1時間）を行いました。



採捕活動

各班の分拍場所では、もれなく引っ越し必要がないので、それぞれ魚がいそうな場所を求めて散りました。

数人のグループで採捕するときは、一人が大きなタモ網を構え、他の人が勢子役としてその上流を足で荒らして浮石の間に潜

む魚を脅かして追い込みます。広い範囲から追い出すので高い効率が期待できます。

また、一人なら、小さいタモ網を構え、その上流側を足で荒らして追い込みます。カバーする面積が小さいので回数が必要ですが、小回りが利き水際を狙うときは有利です。



採捕成果と課題

採捕活動終了後、駒田先生から、「10年前には調査のために川に入ると、大量の魚が足にまとわりついてきたものでした。しかし、今日の採捕数、アジメドジョウ128尾、アカザ62尾、カジカ2尾を見ても底生魚の生息数はだいぶ減っています。

また、最近の重大な問題は、さまざまな魚の稚魚が少ないことです。

これらの原因には、漁法が野放しになっている影響があります。

今後は、貯水池完成後も川の流れと良好な環境が残る場所を保全すること、魚が不自由なく繁殖相手に出会えるだけの数を今から増殖しておくことが重要です」との講評がありました。

今回は80人が2時間かけても、1人当たりの採捕数は2尾強でした。この数からすると、魚が泳いで繁殖の相手を探すのはかなり難しそうです。単純に数を増やすのではなく、生息密度を上げることが重要なだと痛感しました。



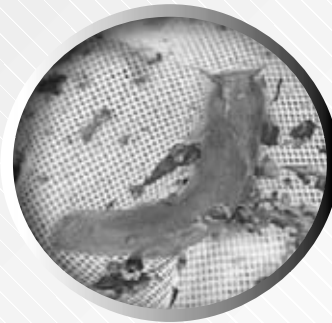
捕獲



移動放流

講評後、駒田先生の指導のもと、淡水魚類研究会（淡水魚の研究者と学生で構成）により、貯水池完成後も川に流れが残る地形がある最上流部へ放流しました。

まず、魚たちをタモ網に放して放流地の水温や水質に慣らしませす。その間に放流地の状況を調査したところ、淵等でアユや



アカザ



アジメドジョウ

アマゴが見られたとのことでした。組織的な放流事業は行われていないのに、短時間の調査で発見できたことから、環境の良さがわかります。

調査が終わり、魚たちも慣れた頃、ヒレ等への切込み細工（モニタリングでの識別用）を施した魚から、静かに放流しました。今後も、定期的にこうした移動放流を続けていきたいと考えています。



移動放流

水と緑と文化の里・

生き活き下田村

村の花、ヒメサユリ



新潟県下田村
企画課長

飯塚 元允

下

田村は、新潟県のほぼ中央部、南蒲原郡の南端に位置し、東部山岳地帯は福島県に接し、西部は山々に囲まれた総面積311km²、人口約1万1700人の自然豊かな村です。村の約9割を山林が占め、福島県境に近い国有林一帯は越後三山只見国立公園、奥早出栗守門県立自然公園に指定されております。

江戸時代は、村松藩に属し「下田郷」と呼ばれていましたが、明治34年の町村制施行にともなうて、長沢、森町、鹿峠の3村に編成されました。現在の下田村になったのは昭和30年。町村合併促進法に基づいて3村が合併を果たし、古くからの地名である下田郷にちなみ、「下田村」が誕生しました。

村の中央を流れる五十嵐川の支流では、笠堀・大谷の2つのダムが豊富な水を湛え、本村並びに近隣市町村の農地を潤し、生活用水を守り続けています。

笠

堀ダムは、五十嵐川の洪水がもたら

した幾多の被害を教訓に、洪水調節、発電、かんがい、水道用水の供給のため、着工より4年の歳月を経て昭和39年に竣工しました。この完成により、県内産業の発展に寄与することほもとより、観光面においても、ダム湖の美観がそえられ、新たな観光資源として期待が高まりました。ダム湖周辺は、国の特別天然記念物カモシカの生息地として知られ、保護地区に指定されています。

また、湖畔には遊歩道やキャンプ場が整備され、水芭蕉の群生地などもあり、観光客の誘致を図っています。

一方、大谷ダムは、昭和44年8月の集中豪雨による被害と、隣接する三条市周辺地域での上水道の水源確保が求められたことを契機に、同55年に着工、14年の歳月を経て平成5年に竣工したロックフィルダムです。洪水調節、河川環境の保全、かんがい、そして近隣5市町村15万



山と平野、清流に育まれた下田村

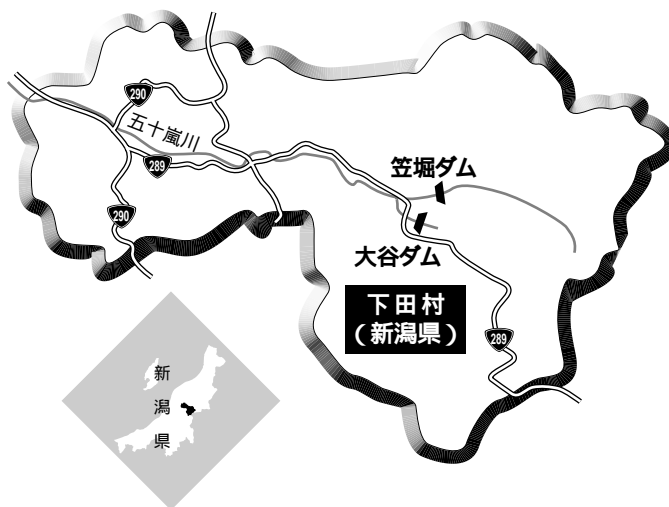
人の水道用水供給のため重要な役割を果たしています。

ま

た、ダム湖の出現は、村の観光資源としても大きな期待が寄せられ、湖畔には、景観の良いはやぶさ広場、自然を活かした水辺広場、ダム建設に関する資料等を展示したダムふれあい資料館、湖を一周できる約6kmの遊歩道等が整備され、四季折々の雄大な自然美を求めて多くの方々が訪れています。

こうした限りない自然の恵みは、村の基幹産

業である農業の振興を促し、肥沃な土壌からは良食味で知られる「しただ米」が生産されています。また、国営開発畑では、全国の市場で高



新潟県景勝百選・八木ヶ鼻
温泉保養交流施設「いい湯らてい」



い評価を得ている純白大輪の「カサブランカ」に代表されるユリ栽培や甘藷等の生産など複合経営が推進されています。

また、本村は、歴史・文化・伝統に育まれた村でもあります。

大漢和辞典の編纂という偉業を成し遂げ、漢学界の最高峰を極めた諸橋轍次博士は本村の出身です。博士の生家は、村の文化財として保存され、隣接地には、博士の遺徳を偲び、数多くの遺品や遺墨が展示された諸橋轍次記念館、和庭園、漢庭園があり、生家とともに「漢学の里」として、広く村内外の人々に親しまれています。

また、かつての越後と会津を結ぶ重要な経済路線であった八十里越は、現在、国・県の事業で整備が進められていますが、旧街道は当時そのまま、人々の往来が盛んであった頃を偲び、毎年多くの人が八十里越を訪れています。

平

成12年4月、粟ヶ岳・新潟県景勝百選の八木ヶ鼻を望む絶景の地に、温泉保養交流施設「いい湯らてい」がオープンしました。豊富な湯量と景観を利用した施設は、年間22万人もの入館者を数え、村の活性化に大きな効果をもたらしました。今後、ここを地域おこしの



初夏のひめさゆり湖



秋の笠堀ダム湖

拠点としていくためには、他の観光施設との連携、基幹産業である農業との結びつき、村民生活の安定向上への運動が不可欠であります。

21世紀初頭、父祖の代からの念願であった国道289号八十里越が、関東圏と新潟県を結ぶ大動脈として開通します。これにより、従来の行き止まり感が解消され、広域観光、産業交流などが活性化し、多大な経済効果が期待されます。

今

後は、ダムと温泉施設を、村民の憩いの場、さらには都市との交流の場として最大限の活用を図り、村の活性化の拠点として位置づけていきたいと思えます。

21世紀の輝かしい下田村を展望するとき、緑豊かな恵まれた自然環境を大切に、村民が喜びと誇りを持てる村民参画のむらづくりを目指していきます。

希少猛禽類の保全策

- 基礎データの蓄積が肝要 -

国際湿地保全連合日本委員会副会長・日本猛禽類研究機構代表

阿部 學

このところダム建設の是非を議論する渦中にあって悶々とした日々を送っている。これまで野生生物保全の立場から意見を述べておればこと足りたが、ダムの可否は治水、利水、環境の側面からの判断が求められる。この議論に加わってつくづく感じることは、治水の分野でいえば、100年なり150年に一度の降水量を想定すると、これだけの治水対策が必要であると数式がはじき出してくれ、仮に、これを怠るとかくかくしかじかの人命、財産が失われるといった具合に定量的な評価が可能であるということである。

ところが環境となると、自然に手を加えること自体がマイナス以外の何ものでもないので、ダムを造れば如何に環境に配慮したとしても、溪流景観は失われ、動植物は生活の場を追われることは明らかである。猛禽類もダム堤体や付替道路、原石山、土捨場、移住地の造成等で営巣場や採餌環境を失うこともある。加えて人の出入りが頻繁になると、それだけで脅威となる。せめてながしかの利点を探し求めて「広い淡水域が創造され、水鳥に新たな休息の場を提供する」といつてみても所詮は人工構造物ではない。

小笠原諸島父島の飛行場のように、世界でたった一株の自生ムニンツツジをねこぎにするとなれば、異議を申し立てても大方の理解が得られやすい。ところが種の保存法対象種であるとはいえず、調査を行えばモザイクブロックをはめ

込んだように、あぶれ個体の入り込む余地もないほど密に分布している猛禽類を守るために、人命・財産は失ってもやむを得ないと主張するのは躊躇される。いうまでもなく事業の必然性を前提にすれば、自然の改変は避けられないことで、自然分野からできることは、影響の低減と追い立てられた生きものの生活再建の保証であらう。

これまでの長いダムづくりの歴史を振り返ると、昨今のダム建設は希少猛禽類の出現で幾多の試練に遭遇している。ことに平成9年の河川法の改正で、その目的に自然環境の保全が位置づけられて以来、猛禽類をはじめとする生きものの取り扱いには細心の注意が払われるようになり、その華麗なる変身ぶりには目を見張るものがある。ダム建設に先立ち、環境省の猛禽類保護マニュアルを遙かにしのぐ長年月の調査が行われ、委員会や検討会が組織され、繁殖活動を阻害しないような保全策が講じられている。

その保全策の中身を見ると、非繁殖期の工事、低騒音・低振動型機械の使用、道路は巣を迂回又はトンネル化、重機類や橋梁の塗色変更、作業員はネットで隠蔽、トンネルには防音扉の設置など、猛禽類さまざまの扱いで、猛禽類の保護を訴えるNGOは相手を崩して言んでいる。

ところが冷静に考えると、これらの保全策は建設時に相手を脅かさないたための配慮事項であって、完成後、猛禽類の存続を保证する策では



繁殖生態の解明

オオタカの雛に給餌を行う親鳥…繁殖生態を映像で記録することにより、抱卵、抱雛行動、給餌動物、給餌量などの繁殖生態を知る手がかりとなるばかりか、着工前、工事中、完成後や事業現場周辺と遠隔地における繁殖活動の比較により影響の評価尺度が生まれる。

ない。事業を行えば必ず自然環境が変化を受ける。その変化は、あるときは架巢環境の改変であったり、餌生産の場や餌場の消失であったりする。本来、保全策はこうしたものが失われないうように回避・低減する方向で検討されるべきで、それが叶わぬ時に初めて、失われたものを補完・代償するものでなければならぬ。

人間の場合は、水特法等により移住先が提供され、生活再建が保証されるのに対して、同じ地域の生き物に対しては一切の保証がない。その上、莫大な資本投下により公共施設の建造、道路、河川環境が整備され、生き物はますます住み難くなってしまふ。地域の人々とともに生きものも明らかに生活の場を失つのであるから、水特法の対象とまではいわないが、何らかの保全の手が差しのべられてしかるべきであろう。

猛禽類問題で今最も欠落している部分は、生態に関する科学的な基礎データで、これなくして保全策は生まれてこない。現在は、巢の位置と飛翔の軌跡図を基にして、感性の鈍った人間が猛禽類に成り代わって事業の影響を予測し評価を行っている。その結果、提示される保全策は業種、対象種、地域の如何を問わず恰も判で押したように変わり映えがしない。これでは調査も、委員会も存在する意義がない。

事業の影響評価は、欧米のように実験区と対照区における繁殖成績を基準にして判断されるべきである。すなわち、生きものに影響を判断させることにより、判断基準が定量的に提示されることになる。

現在の飛翔の軌跡図を描く作業、肅々と行う工法の何れもが、彼らの生活再建策とはおよそ縁遠いものであることに思いをいたし、真の共存共栄の道を探る時期に来ている。現行の飛翔の軌跡図を何十年描き続けても、彼らへの貢献策は何も生まれてこないことを認識すべきである。さらに猛禽類の生活の場を直接改変する事業者が、その保全の責務を負っていることも改めて認識すべきである。

編集メモ

第9回世界湖沼会議が、いわば里帰り会議として、発祥の地であり琵琶湖を擁する滋賀県で開かれました。湖沼の抱える課題には、多くの部分で、ダム水源地が抱える課題と共通したものと感じられました。

その意味で、この会議に参加した「住民、芸術家、行政、メディア、研究者、学生、NGO、企業、政治家などさまざまな主体」は、ダム水源地の課題解決に際して必要とされる、連携の範囲をも示していると思われまふ。

第3回世界水フォーラムも、あと1年余と迫ってきました。ここに向けても、「さまざまな主体」が参加する、地域会議、ヴァーチャル・フォーラム、「水の声」プロジェクトなどの準備活動が進められています。水の世紀の幕開けのようです。

水源地ミュージカルの上演

11月9日、国土交通省により湯西川ダム建設が進められている栃木県栗山村において、水源地をテーマとしたミュージカル「リバーヘッド」森と川と水源地のものがたり」が上演された。このミュージカルは、水源地の重要性や役割を広く知ってもらうとともに、上下流に暮らす人々が水を通じて交流を深め豊かな水・森林資源を守る新しい流域ネットワーク創りを目的として企画実施されている。

上演は、劇団「ふるさときやらばん」により行われ、生演奏による軽快な音色とダイナミックなダンスが、訪れた約500人の観客を魅了した。来年1月には、東京上演も予定されている。



「美山湖紅葉フェスティバル」開催

秋田県協和ダム「美山湖紅葉フェスティバル」が10月20日、21日の2

日間にわたり荒木沢公園を主会場として行われた。

このイベントは、美山湖での釣り大会や人口河川での魚のつかみ取り、ウォーキング大会やステージショー（森村まり歌謡ショー）などで盛大に開催された。また、20日は豚汁、21日には、いものこ汁ときりたんぼ鍋が訪れた人々にふるまわれた。

秋晴れの好天にも恵まれ、2日間で約3000人が訪れ、美山湖周辺の紅葉と、おいしい秋の味覚を満喫していた。



奥三面ダム竣工式

10月19日、新潟県が二級河川三面川水系の三面川に建設を進めてきた奥三面ダム・奥三面発電所の竣工式が、地元関係者、行政関係者等約300人の出席のもと行われた。式典では新潟県知事による命名宣言や記念放流などが執り行われた。

奥三面ダムは、洪水調節、河川環境の保全、発電を目的とした堤高116m、総貯水量10万8000m³を誇

るアーチ式コンクリートダムである。

朝日村、村上市の生活、農業及び産業の基礎として地域に大きく貢献することが期待されている。



月山ダム竣工式挙行

10月14日、東北地方整備局が、山形県東田川郡朝日村の赤川水系梵字川に建設を進めてきた月山ダムにおいて、関係機関や用地提供者及び工事関係者等約400人の出席のもと竣工式が行われた。



月山ダムは、一級河川赤川における洪水調節や河川環境の保全、庄内南部地域への水道用水の供給、発電

を目的とする堤高123m、総貯水量6500万m³の重力式コンクリートダムで、昭和51年に実施計画調査に着手して以来、26年の歳月を経て完成を迎えた。平成14年度から管理に移行し、本格的な運用を開始する予定となっている。

萱瀬ダム竣工式

(完成記念ウオーク大会)

10月11日、長崎県と長崎市・大村市が二級河川郡川水系郡川に建設を進めてきた萱瀬ダムの竣工式が地元関係者、行政機関関係者約150人の出席のもと盛大に行われた。

萱瀬ダムは、洪水調節、河川環境の保全、水道用水の供給を目的とした多目的ダムであるが、このたびは既設ダムを14.5m高くする高上げが施工され、完成したものである。

また、10月14日には、ダム完成記念ウオーク大会が地元大村市主催で開催され、県内外より約1500人の参加があり、ダム周辺の自然景観を眺めながらの楽しいウオーク大会となった。

